※１『真理のメタファーとしての光/コペルニクス的転回と宇宙における人間の位置づけ』ハンス・ブルーメンベルク著、平凡社、2023.10

※２『聖書思想事典　新版』X.レオン デュフール [ほか]編、三省堂、1999.12.

※３『聖書神学事典』鍋谷尭爾、藤本満、小林高徳、飛鷹美奈子監修、いのちのことば社、2010.7.

※４『フランスにおける脱宗教性(ライシテ)の歴史』白水社、2009.5、『世界のなかのライシテ ： 宗教と政治の関係史』白水社、2014.9 など

※５『ライシテから読む現代フランス政治と宗教のいま』伊達聖伸著、岩波書店, 2018.3、『啓蒙とはなにか－忘却された〈光〉の哲学－』ジョン・ロバートソン著、白水社、2019.3.、『不寛容論－アメリカが生んだ「共存」の哲学－』森本あんり著、新潮社、2020.12、『日米における政教分離と「良心の自由」』和田守編著、ミネルヴァ書房、2014.3.ほか。

※６『宗教 vs.国家 ： フランス〈政教分離〉と市民の誕生』工藤庸子著、講談社, 2007.1.

※７『ヨーロッパの世俗と宗教』伊達聖伸 編、上智大学ヨーロッパ研究所、2019.3.

※８『世俗の新展開と「人間」の変貌』伊達聖伸、木村護郎クリストフ編著、勁草書

房、2024.2.

※９　※５参照

※10『啓蒙の弁証法 ： 哲学的断想』ホルクハイマー、アドルノ著、岩波書店, 2007.1.

※11『啓蒙』ドリンダ・ウートラム著、法政大学出版局, 2017.12.

※12『カルトと対決する国 ： なぜ、フランスで統一教会対策ができたのか、できるのか』広岡裕児著、同時代社, 2024.8.

※13『国家・個人・宗教 ： 近現代日本の精神』稲垣久和著、講談社、2007.12

※14『世俗の時代』上・下、チャールズ・テイラー著、名古屋大学出版会、2020.6.

※15『センターチャーチ：バランスのとれた福音中心のミニストリー』ティモシー・ケラー著、いのちのことば社、2020.9.

※16 ‘Art Is: A Journey into the Light’ Makoto Fujimura,Yale University Press,2025.10.

※17『芸術崇拝の思想 ： 政教分離とヨーロッパの新しい神』松宮秀治著、白水社, 2008.5.

そのほかの参考文献　記事本文では引用しなかったが、以下の書籍も参考になる。

『イマジン ： 芸術と信仰を考える』スティーブ・ターナー 著、いのちのことば社, 2005.10.

”Culture Care: Reconnecting with Beauty for Our Common Life” Makoto Fujimura, IVP,2017.1.

”Art and Faith: A Theology of Making”Makoto Fujimura,Yale University Press,2021.1.

『美術の窓　No.502 祈りに呼応する芸術　キリスト教美術の現在』2025 年 7 月号、生活の友社

『近代世界の公共宗教』ホセ・カサノヴァ 著、筑摩書房、2021.9.

『フランス革命についての省察』エドマンド・バーク 著、光文社, 2020.8.

『崇高と美の起源』エドマンド・バーク 著、平凡社, 2024.4.

『寛容についての手紙』ジョン・ロック 著、岩波書店、2018.6.

『寛容論』ヴォルテール 著、光文社、2016.5.

『永遠平和のために 啓蒙とは何か ： 他 3 編』カント著、光文社、2006.9

『政治と宗教 ： 統一教会問題と危機に直面する公共空間』島薗進 編、岩波書店, 2023.1.